



十和田湖水たんけん2025

令和7年7月9日（水）、十和田市立法奥小学校及び沢田小学校第4学年17名による集合学習「水たんけん学習」が実施されました。「水たんけん学習」では、地域の農業用施設の水源である十和田湖や十和田発電所の施設見学を通し、地域の歴史や地理的繋がり、用水路の仕組みについて理解することを目的としています。

児童たちは地域の農地に水を届けるため奥入瀬川水系に設置された農業用施設を見学しながら、水源である十和田湖へ向けてバスで移動します。途中、国の天然記念物に指定されている法量のイチョウ近くのトンネルにも立ち寄り、奥瀬堰土地改良区職員の方から説明を受けました。そのトンネルは昔の人が水路を作るためどうしても避けられなかった大きな岩に手作業でトンネルを作った暗渠でした。児童たちは暗渠を覗き込みながら驚いた様子で声を上げていました。



【法奥小学校にて出発式】

奥瀬地区の幹線用水路ではアヒルのおもちやを使用した実験を行いました。この実験は本学習で「アヒルレース」と呼ばれて親しまれています。水路の上流からアヒルを浮かべて流し、下流のゴールまで誰のアヒルが一番流れ着くかを競いながら、同じ水路の中でも流速に違いがあることを目で見て感じ、理解することができました。



【手掘り暗渠の見学】



【頭首工の見学】



【沈砂池の見学】



【アヒルレースの様子】



【アヒルレース後の集合写真】

また児童たちは十和田湖の青ブナ取水口から水を取り入れ発電している十和田発電所を見学しました。木の葉や流木などを取り除く除塵機や、大きな音を立てながら回る水車を目にした児童たちは、その迫力に負けじと大きな声を上げていました。またこの日は発電機の一つが修理のために解体作業を行っており、巨大なコイルが天井から吊るされていました。普段は見る事ができない様子に見入っているようでした。



【発電所職員から説明を受ける児童】



【修理のため解体中の発電機】



【青ブナ取水口の除塵機の見学】



【十和田発電所の見学】



見学から戻った後、沢田小学校の理科室で見て学んだことを整理します。今回の学習に同行していた青森県土地改良事業団体連合会（水土里ネット青森）職員による紙芝居で、水がどのように移動し、生活において利用されているかを改めて復習しました。

その後は見学の途中で頭首工などから採取した水を使い、水質調査の実験をしました。この調査ではCOD（水中の化学的酸素要求量を指し、高いほど有機物が含まれる）を測定しました。十和田湖を水源とする奥入瀬川は澄んできれいな水であり、高濃度COD用のテストキットでは反応しないため、低濃度用のキットを使用します。児童たちは奥入瀬水系の水がどれほど綺麗であるかを目に見える形で体感することができました。



【紙芝居による学習会】



【水質調査実験の様子】



【水質調査の結果】



【解散式】